

図書館だより

目次

VERITAS VIA VITAE と大学図書館	— 島崎 恒藏	1
わたしの児童文学研究	— 川端 有子	3
宇宙	— 金井 千紘	4
自分の世界を広げよう!	— 大澤 麻美	4
「図書館友の会」閉会にあたって	— 中曾根 緑	5
私流・図書館の使い方! を見つけよう	— 中澤 恵子	6



図書館（目白）正面玄関

VERITAS VIA VITAE と大学図書館

島崎 恒藏

“VERITAS VIA VITAE”は、大学図書館に掲げられたラテン語の標語であり、本学関係者であれば、知らぬ者はいない。しかし、これがどのような経緯で大学図書館に掲げられるようになったのかは、図書館建設からすでに半世紀を超え、また世代交代などもあって、現在の学園構成員といえども必ずしも十分に周知されているとは言えないのが現状のように思われる。その点から、改めてこの標語について振り返ってみることは、図書館のみならず大学にとっても、大きな意味があることと考えられる。

学園における関連資料をあたってみると、『日本女子大学学園史二』には上代タノ学長（6代）の図書館（現目白図書館）開館式の挨拶が掲載されている。その中で標語の選定に関し「松本重治建築委員長をはじめ、多くの先生方、また英国詩人ブランデン氏にまで考えていただき、多数の方々の熱心な助言により決定した」との箇所がある。したがって、海外の識者を含む多くの方々の衆知を集めて、この標語を選定したことが読み取れる。残念ながら、どの資料の中にも根拠となる出典等の細かな記述などは見あたらない。しかし当時、相当に詳細な議論と検討がなされたことは想像に難くない。

一方、選定された標語である“VERITAS VIA VITAE”の意味や解釈については、これまで種々な形で、またさまざまな場で取り上げられてきた。たとえば、昭和39年7月の『女子大通信』の中で、篠崎茂穂図書館主事は、上代学長の6月の木曜会における挨拶文を紹介しているが、その中に標語の意味に触れている箇所がある。すなわち「標語は直訳すれば「生命による真理」ということになるが、その意味はいろいろに理解される」との上代学長のコメントが紹介されている。これに続けて篠崎茂穂主事は「Veritasは真理、真実、正義、正しさ等の意味があり、Vitaeには生命、生活様式、一生涯、生活手段等の意味があって、この二文字がViaすなわち道または通路という語で結びつけられている一つの表現である」と述べられ、さらに「図書館というものは利用者個々の人はもちろん、大学全体としても、生命をかけて真理を探究する場所であり、大学という学問をする有機体の心臓である」という解釈をラテン語の標語とオーバーラップさせ、図書館の実を表すものだと表現されている。

(2頁へ続く)

これ以降も標語に関する記事は散見され、執筆者と内容を順に紹介してみると、昭和40年5月の『図書館だより』で大原恭子先生は「ラテン語の標語は、“TRUTH IS THE WAY OF LIFE”の意味で、「真理は生命の道／真実は人生の道」とも解釈できる限りなく深い意味を暗示するモットー」であるとしている。さらに中島斌雄先生は、昭和47年5月の『図書館だより』で標語を「三つのV」と名付けて、その意味を「人生は真理なり」とし、唐澤富太郎先生は昭和53年6月の『図書館だより』で、標語は直訳すれば「生命による真理」、意識すれば「生命をかけて真理を探究する」であるとし、また福田陸太郎先生は昭和56年5月の『女子大通信』の中で、標語は「生を通しての真理」とも「生の道なる真理」とも解釈できるが、いずれにしても真理と生というものを結びつけている言葉であると述べておられる。

以上のように、“VERITAS VIA VITAE”は、多くの図書館関係者や先生方によって、多少なりとも異なる解釈が大学の種々の場面で繰り返し論じられてきたが、昭和58年2月に当時の福田陸太郎館長（5代）の裁断により、「生を通しての真理」とする統一見解が出され、これ以降の図書館オリエンテーション、大学案内、その他の紹介文の中で、専らこの定訳が使われるようになった。図書館には、現在もこの裁断に至った福田陸太郎先生による自筆の資料も保存されている。

このような流れを受けて標語が定訳化されたために、この標語の意味等に関しては、それ以降、大学内で余り話題化されなくなったが、それでも探してみると平成22年の『わたしの大学』の中で文化学科の斎藤広信教授（現在、名誉教授）が、「VERITAS VIA VITAE（生を通しての真理）——含蓄に富む語句であり、その意味をパラフレーズすることは難しいが、これの英訳は TRUTH IS THE WAY OF LIFE（真理は生命の道／真実は人生の道）となっている」と言及した箇所を見出すことができる。

昨年の秋頃に、英文学科の川端康雄教授から思いがけずに“VERITAS VIA VITAE”に関する私信を頂戴した。ここでは詳細な内容は割愛せざるを得ないが、川端教授は語学的、歴史的考察などをもとに、結論として“VERITAS VIA VITAE”は従来の定訳である「生を通しての真理」とするよりは、「真理は生の道」とする方が、本学図書館に相応しいとの見解を表明されている。この川端教授の見解は、傾注すべき内容のように考える。

前出の資料の中で篠崎茂穂図書館主事も触れているように、本学図書館にこの標語を選定された上代タノ先生は、“VERITAS VIA VITAE”を一つの固定した語訳に制約してしまう必要はない、とのお考えだったようであり、またこの点は各種の資料からも窺い知ることができる。このラテン語の標語は、まさに生と真理の間を結びつける指針であって、極めて簡略な記述の中に、多くの濃縮された思いが込められた含蓄ある標語と言うことができる。しかし簡略的であり、かつ含蓄ある標語であるからなおさらのこと、これまでの固定した語訳から一步引いて、もっと自由な気持ちで“VERITAS VIA VITAE”を受け止めることが、大学図書館として、あるいは学園関係者としても求められているのではないかと思っている。（図書館長・被服学科教授）

参考文献

- ・『日本女子大学学園史二』第三篇 第七章 新図書館の開館式と創立六十周年記念事業の完成
- ・『女子大通信』No.186（1964年7月）篠崎茂穂「随想 名づけ親」
- ・『図書館だより』No.3（1965年5月）大原恭子「新入生に寄せて」
- ・『図書館だより』No.25（1972年5月）中島斌雄「三つのV—新入生オリエンテーションでの小講話—」
- ・『図書館だより』No.38（1978年6月）唐澤富太郎「図書館の活用—新入生オリエンテーションの話より—」
- ・『女子大通信』No.388（1981年5月）福田陸太郎「図書館について」
- ・『わたしの大学2010』斎藤広信「自分の生き方を考える」

わたしの児童文学研究

川端 有子

児童文学の研究をしている、と人に話すと、「ああ、『ぐりとぐら』とか？大好きだったわ」とかいう反応が返ってくることもある。違う、わたしは絵本論の翻訳はしているが、自分ではあまり研究はしない。根っからの活字人間なので、絵本では物足りないのだ。

「可愛いことをやってるんだね」とあからさまにばかにされることもある。全然違う、児童文学研究はまったく可愛いところなどない。

「あの、イギリスの児童文学で、アリスとかピーターパンとかです」と少し詳しく説明すると、相手の脳裏にディズニーのアニメのイメージが浮かび上がるのが目に見えるようだ。違う、わたしは『『アリス』におけるく喰う／喰われる』の関係について」とか、『『ピーターパン』におけるダーリング氏とフック船長の同一性』とかについて論文を書いている。ちなみに児童文学研究者でディズニーが好きだという人はまずいない。

「特に研究している作家は誰ですか？」と聞かれると『『秘密の花園』を書いたフランシス・ホジソン・バーネット論でPhDを取りました』と答えるのだが、まさか相手はわたしが「バーネット作品に見る他者としてのインド表象」を中心に、世紀末イギリスの歴史・社会・文化をインド、フランス、アメリカのかかわりから考察したのだとは思わない。

というような経験が非常に多いので、立ち話くらいでは、自分の研究内容を話したくないのが現状だ。誤解されやすいのである。

児童文学の研究の方法にはいろいろある。子どもの反応を観察し、記録を取るというような実践的なもの、読み聞かせや素語りなどの方法を極めるもの、読書推進のためにはどうしたらいいか、というような、現実的(?)な方法もある。しかし、そもそも英文科出身で、そのあと英米学科で長年教えてきたわたしのやり方は、完全に書誌研究であり、いちおうライフワークの核としているのは、おとなが作り上げた概念としての“childhood”(子ども時代／子どもたるもの)が、その時々々の児童文学にどうあらわされているか、という問題であり、そのために取っている方法論は、新歴史主義と呼ばれるものだ、と一応自分では思っている。

概念としての“childhood”には、おとなが理想化した過去の子どもの時代、おとなが期待する理想的な子ども像、おとなが未来に賭ける将来の人間像、と過去・現在・未来のイメージが重なりあっている。児童文学に登場する子どもたちは、現実の子ども像を映しつつも、おとなのそういった思いを担わされている。これが歴史的であり、政治的であり、社会的でなくて何だろう。

というわけで、ここでは、おとなのためならではの児童文学の楽しみ方をお勧めしておこう。主人公とプロットを追うのはやめ、むしろ脇役の配置や役割、物語の背景、時代、そしてその本が書かれた社会、文化が、どのような“childhood”を欲していたのか、を考えてみましょう。作者が表向きに言いたがっていることとは、矛盾するような言説が、テキストの中に紛れ込んでいないか、検討してみましょう。小さい頃、読んだ時にどうもひっかかってよくわからなかった、おかしいなと思った、そんなところをおとなの知性と経験で説明してみましょう。——わたしの研究はいつもそこから始まる。

日本女子大学の図書館には、原書も翻訳も、いちおう古典的名作と呼ばれるものがそろっている。＜ナルニア国＞年代記、＜ドリトル先生＞シリーズ、＜アリス＞の二冊、＜赤毛のアン＞シリーズ、＜ツバメ号とアマゾン号＞シリーズなどなどである。岩波少年文庫はいわゆる名作を網羅しているから、そのあたりもお勧めである。このへんを読めば、今、日本が世界に誇るアニメやマンガ文化が、実は(皮肉にも)ルーツのところで英米児童文学に大きく恩恵を被っていることがわかるだろう。たとえば、『となりのトトロ』と『不思議の国のアリス』には、そっくりな場面があるのである。

(児童学科教授)

宇宙

金井 千紘

私は、2年生になってから司書課程を取り始めたのですが、そのなかのある授業で、「貴方にとって本とは？」ということを書き紙に書く機会がありました。題名の「宇宙」は、当時の私が、言いたいことが上手くまとまらずに悩んでいたなか、ふと頭に浮かんだ言葉です。ほとんど思いつきの言葉だったのですが、いざ書いてみると、不思議とじっくりくる表現となりました。そして、本を「宇宙」と表現するのならば、図書館も「宇宙」だな、と思いました。

その時は何故そんなふうにしたのか分かりませんが、図書館って私にとって何だろう、ということを書き紙にしたとき、その理由を理解することができました。どんな本にも共通しているのは、情報が詰まっていること、それを作った人がいることです。だから、本と出会うということは、知らないことと出会うこと、知らない人と出会うことだと私は思います。そして、そんな情報の集大成である本達を収集し、大切に保管し、私達に提供してくれる場所が、図書館です。「宇宙」という言葉は、「未知との出会い」という点から、私のなかに出てきたのだらうと思います。

私自身、図書館に行くのは、レポートのためということの方が多いのですが、時間が空いたときなどには、気の向くままに館内をうろつくようにしています。図書館には様々な分野の本があって、自分の専攻分野の書架を見るばかりでは勿体無いように思うからです。たとえ興味のない分野だったとしても、「こんな学問があるんだ」「こういう研究をしている人がいるんだ」と知るだけでも、自分にとって収穫になる、と私は思っています。だから、大学生活の四年間、図書館をレポートの為だけの場所にすることはなく、何度も利用して彷徨って、たくさんの知識や人と出会う場所にしたいな、と思います。

(史学科・2年次学生)



自分の世界を広げよう！

大澤 麻美

皆さんにとって図書館はどのような空間ですか？ある人にとっては読書や勉強のための空間かもしれないし、ある人はほとんど図書館を利用しないから分からないと思うかもしれません。私にとって図書館は自分の世界を広げる空間です。本を借りて、読む…決して特別な行動ではありません。しかし、私は日本女子大学図書館で過ごすそんな時間が大好きです。図書館なら大学の図書館でなくても公共の図書館もあります。しかし、大学図書館というのは独特の雰囲気があります。そこで過ごす時間はまるで時間が止まっているように穏やかで優しく感じることもあるのです。とても不思議です。まず、大学図書館はとても綺麗で清潔感があります。それだけでなく居心地の良い空間で、暇な時間があると特に何かをやるわけでもなく、すぐに立ち寄りたくなるのです。時には気持ちよくなってうとうととしてしまうことも…。

次に、大学の図書館の良い所は所属学科以外の本も豊富にあることです。時には、専攻分野以外の本を読んでみると新鮮で面白いと思います。私は特に読みたい本が無くても、面白そうな本はないかな～と図書館内をうろうろします。偶然手に取った本が期待以上だと、まるで宝物を発見した気分になります。本を読むことで、単に知識を吸収するだけでなく、自分の中にいろんな世界を作り視野が広がるのではないのでしょうか。

日本女子大学図書館の居心地の良い空間は授業の課題がはかどるだけではなく、自分の時間を大切に過ごさせてくれる気がするのです。短いようで長い大学生活は個人の心がけ次第でいくらでも充実したものとなるでしょう。そんな時間に図書館で過ごす時間が入っていてもおかしくないと思います。課題をやる・読書する・のんびりくつろぐ…人によって図書館の活用方法は様々です。ぜひ、自分独自の図書館の使い方を見つけてみてください。新しい世界が見えてくるかもしれません。

(現代社会学科・2年次学生)

「図書館友の会」閉会にあたって

中曽根 緑

日本女子大学図書館友の会は、上代タノ第6代学長により1965年に創設され、その目的は、大学図書館の充実発展に寄与すると同時に、大学図書館とのつながりにおいて会員それぞれの前進向上をはかることとされ、本学教職員、旧教職員、卒業生、在学生及びその父母、その他一般の方々により構成されてきた。創設以来47年にわたり貴重な諸活動を行ってきた友の会であるが、友の会『会報』No.130（2012年3月）において、2013年5月に開催の総会を以て解散することが表明されている。

図書館友の会の成り立ちと経緯は、友の会常任理事飯塚美子氏による「日本女子大学図書館友の会の活動について」（『大学図書館研究』No.77（2006年8月）p.72～77）に概説されており、その歩みは、日本女子大学図書館友の会『会報』（1966年10月～）により辿ることができる。

友の会の具体的な活動としては、①図書館の図書購入資金の寄贈、②上代タノ平和文庫の選書・収集および管理・運営の補助、③卒業生著作調査および目録作成、④各種講座・読書会開催、⑤見学会等の実施があげられ、趣旨に賛同して入会した会員（普通会员・年会費5,000円）は、図書の貸出を含む本学図書館の利用、友の会主催の諸活動への参加が可能となり、会報の送付がなされてきた。友の会の閉会表明を受けて、図書館では、閉会後の諸課題について検討を行ってきた。その結果、2013年度より、上代タノ平和文庫の選書等を継承すること、図書館利用に関して、新たに学園関係者ならびに地域住民の方々による利用を開始することが決まっている。

上代タノ平和文庫は1971年に創設され2011年に創設40周年を迎えた。その折、文庫の運営委員である松本晴子氏が「上代タノ平和文庫創設40周年を迎えて」（『図書館だより』No.142（2011年11月15日））を記されている。文庫は図書館（目白）5階の開架書架にあり、一部を除き、貸出もできる。その目的は、文庫の規定において次のとおりとされる。

「本文庫は日本女子大学一般学生に大切な教養として、世界平和の問題に関する正確な知識と関心を深めさせること、なお進んで専門に研究せんとする学生にもある程度の基礎的な科学知識を得させることを目的とする。この平和文庫の特色は高度の研究にいたる基礎的知識を与え、現実的な諸問題を研究し、正しい国際状況や関係を会得して平和運動者にたしかなよりどころを与えようとするもので、世界人類の幸福に対する日本の役割を充分に果すことのできる基礎を与えるのがその主な目的である。なお、日本婦人が将来積極的に現在の国際平和機関、U.N.、UNESCO、UNICEF、WHO、FAO、ILO等において必要な国際公務員、あるいは役員になることも望ましく、そのための基礎知識の獲得もこの文庫の目的の一つである。」

友の会の運営による上代タノ平和文庫選書委員会は2013年3月を以て終結するが、2013年度からは、図書館の選書体制の中で上記の目的をふまえて選書を行い、文庫の発展を継承していくことになる。

図書館利用に関しては、2013年度より、在学生の保護者等ならび地域住民について、資料の閲覧を可能とする方向で学内外の関係者と協議を行っている。また検討の過程で、附属中学校・高等学校生徒の大学図書館利用についても見直しを行うこととなり、あらかじめ当該校からの申し出を必要としていた方式を改め、身分証（生徒証）提示による資料閲覧を可能とする方向となっている。利用開始日、必要な手続きなどの詳細は、対象者ごとに適した方法により、案内をしていく予定である。なお、当館は以前より、卒業生、旧専任教職員については図書の貸出を含む利用が可能である。

上代第6代学長は、創立60周年記念事業の一つとして、確たる理念に基づき現目白図書館を新設。内容の充実については、館長・館員による計画や努力に加え、友の会という組織による支援を提唱された。上代元学長の、ハード、ソフト両面での図書館充実への構想にあらためて深く感じ入る。筆者は、総会や役員会の席上ならびに日常の中で、友の会会員の図書館への期待や熱き想いに接し、大きな励ましを得てきた。会は閉じられるが、友の会を擁してきた大学図書館の職員として、約半世紀にわたり本学図書館の充実のために結集し活動した会の存在やその想いを忘れることなく、より良き図書館をめざして努めてまいりたい。（図書館事務部長・情報サービス課長兼務）



図書館の使い方！を見つけよう

こんにちは、日本女子大学図書館です。図書館は目白・西生田両キャンパスにあり、本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は、両館を利用することができます。

大学図書館に初めて足を踏み入れた方は、「今まで利用した公共図書館や高校の図書室とは雰囲気や蔵書の内容が違う」と思うでしょう。大学図書館は大学での研究を支えるための学術機関ですから、蔵書構成も他の図書館とは異なります。大学図書館を使いこなすには、日頃からその利用に慣れておくことが大切です。最初は各種利用案内を片手に図書館散策、徐々にお気に入りの過ごし方や使い方を見つけ、「私流・図書館の使い方」を構築してください。今回はその構築に役立つ素材をご紹介します。その素材をどう組み合わせるかはあなた次第です！

*** 図書館のことを知る ***

◆ 図書館ホームページを見る ◆

図書館ホームページは、開館カレンダー、各種お知らせ、探し案内など情報がたくさん掲載されているとともに、蔵書検索・情報検索の窓口になっています。まずは隅々までじっくり見て、図書館へ行こう！という気持ちを盛り上げましょう。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。なお、携帯サイトでも、一部の機能をご利用になることができます。

日本女子大学図書館 HP Web サイト <http://www.lib.jwu.ac.jp/>

日本女子大学図書館 HP 携帯サイト <http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>

◆ 「図書館のしおり」を読む ◆

図書館とそのサービスのことが簡単にわかるパンフレットです。新入生の方にはオリエンテーション資料として配布しています。館内にも配置してありますので、ご自由にお取りください。また、図書館ホームページ「利用案内」にも PDF 版が掲載されています。

PDF 版 URL <http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/UG.html>



資料を探す、読む、借りる

はじめに、利用カードをつくりましょう。学生証、教職員証を持ってカウンターにお越しください。利用カードは目白・西生田共通で、登録した本人のみ有効です。図書館への入館、図書の貸出、貸出中図書の予約、外部倉庫委託資料の取り寄せ、目白・西生田図書館間の資料取り寄せ・取り置きをするには、利用カードが必要です。



なお、図書を延滞すると、延滞した日数分だけ貸出停止になるのでご注意ください。

◆資料の探し方① 直接書架へ行く◆

この図書館は開架式です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。目的の資料を利用するだけでなく、様々な分野の資料群の中を歩いてみましょう。きっと素敵な発見があります。

資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて置かれています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデューイ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。

なお、和装本、AV資料（視聴覚資料）など、一部の資料についてはスタッフが出納いたします。利用をご希望の場合は、カウンターまでお申し出ください。

◆資料の探し方② OPAC (Online Public Access Catalog) で検索する◆

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、OPACで本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。1990年3月以前に受け入れた目白地区の蔵書の一部にデータ未入力のものもありますが順次入力中です。

なお、webOPACからは、新着図書リストや貸出ランキング、先生方が各授業のために指定した指定図書リスト等もご覧になれます。



◆My JWULIS —図書館HP上のプライベートルーム!— を使う◆

My JWULIS (Japan Women's University Library Information System) は図書館が提供するオンライン・サービスです。OPACの検索結果から予約（貸出中図書予約、目白・西生田間図書館所蔵図書取り寄せ）ができるほか、My JWULISのメニューを選んでログインし、利用状況の確認、貸出更新、予約、検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。携帯サイトでも利用できますが、Webサイトとは一部内容が異なります。

◆資料の探し方③ 参考係に相談する◆

参考係は、皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。必要な資料が見つからないという時はご相談ください。

*** 図書館イベントに参加する ***

◆ 図書館開催の講習会に参加する ◆

図書館では、資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しており、その内容には、図書館利用におけるエッセンスがぎゅっと濃縮して詰め込まれています。2013年度の開催に関しては、図書館ホームページやJASMINE-Navi、館内掲示にてお知らせします。ふるってご参加ください。

◆ 「学生が読みたい本」に応募する ◆

図書館では、過去に実施した図書館利用者アンケートの要望を受け、年2回（前後期各1回）「学生が読みたい本」を募集し、研究目的に限らず、大学図書館にあった方が良くと思う本、読みたい本のリクエストを受け付けています。学生の皆様、ふるってご応募ください♪

2012年度前期は5月8日（火）～15日（火）、後期は11月1日（木）～8日（木）に募集を行い、目白では142件（前期62件、後期80件）、西生田では82件（前期41件、後期41件）の応募がありました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り、入口フロアにある専用の書架に別置されています。2013年度の開催に関しては、図書館ホームページやJASMINE-Navi、館内掲示にてお知らせしますのでご覧ください。

なお、研究のために必要な図書の購入に関しては、常時、参考係にて受け付けています。ぜひ、ご相談ください。

*** 図書館の施設を使う ***

大学図書館には様々な学習スペースがあります。新聞（日本語・英語・中国語・韓国語）や情報誌（日経womanやOz magazine等）がある2階ブラウジングコーナー、図書館資料を使ってグループで学習・研究する4階グループ研究室、DVD・ビデオ・CD等を楽しめるコーナー、図書館資料を広げつつレポートや論文を作成できるメディアセンター常設PCや貸出PC用情報コンセント…ここでは紹介しきれません。各施設を積極的に活用しましょう。

*** 協定校を利用する ***

日本女子大学図書館は、学習院大学図書館（2009年11月1日施行）、お茶の水女子大学附属図書館（2011年11月1日施行）と図書館相互利用協定を締結しています。f-Campus（5大学単位互換制度）も併せ、下記の表にてご紹介します。各図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。

	図書館間相互利用協定		f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	学習院大学、学習院女子大学 立教大学、早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者		f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧、複写 図書の貸出	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写

* 詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」をご覧ください。

協定校利用案内 URL <http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>

（館員・閲覧係 中澤恵子）

編集後記 VERITAS VIA VITAE は目白では外壁に掲げられ、西生田図書館では玄関ホールに掲げられている。その意味や解釈について鳥崎館長が歴史を辿りつつ今後のあり方を示された。新入生の活発な利用が待たれる春である。まずは気軽に立ち寄っていただき、金井さんや大澤さんのように大学生活の充実に活用されることを願っている。卒業生や退職された専任教職員の利用も可能。ぜひご再訪を。（中曾根）